

特定外来生物等専門家会合により特定外来生物の指定対象とすることが適当とされた外来生物

種名	学名	評価の理由
カルロスキウルス・フィンライソニイ (フィンレイソニス)	<i>Callosciurus finlaysonii</i>	原産地ではクリハラリス（亜種タイワンリスを含む）と類似した生息地選択、食性を示しており、野外放逐されれば国内でも温暖地域を中心に定着するおそれがある。国内に定着すれば、植物や昆虫などに対する食害や在来種のニホンリスや鳥類などとのニッチ重複による競争排除などの生態系への被害が予想される。海外では、果樹などの農林業等に対する被害が報告されている。
ヘルペステス・アウロプンクタトゥス (ファイリマンダース)	<i>Herpestes auropunctatus</i>	奄美大島、沖縄島で希少な在来生物を捕食することにより、生態系への被害が深刻化しており、防除などの対策がすでに実施されている。国外でも、食肉獣のいない島嶼に持ち込まれた際、在来の生物群集に対するインパクトが大きいことが指摘されており、本種が在来生物の絶滅要因になったとされる事例が報告されている。鶏卵、鶏雛に対する養鶏被害や、農作物への被害が報告されている。